

「あいこ」は、勝ちも負けもない対等な関係を表す言葉です。「あいこ」は、この分かち合いの精神で、障がいのある人ない人にかかわらずお役に立つ情報を発信します。

i-feature

障がいのある方のアート作品を公募するビッグ・アイアートプロジェクト。

4回目となる2014年度作品募集には、初の外国人審査員として、エドワード M. ゴメズ氏をお招きしました。

彼は、応募された作品をどのように審査し、その経験から何を感じたのか？

審査後の率直な想いを語っていただきました。



《プロフィール》

エドワード M. ゴメズ Edward M. Gómez

ニューヨークとロンドンを拠点に活動する美術評論家であり、美術史家、アートジャーナリスト。日本とその文化に長く深い関わりを持つ。初めて日本を訪れたのは1980年代の後半。フルブライト奨学生として日本のモダンアートの歴史を調査するために来日した。アウトサイダー・アートの雑誌『RAW VISION』の編集局長を務めるほか、ニューヨーク・タイムズ、ジャパントゥタイムズ、サンフランシスコ・クロニクル、Art & Antiques、ARTnews、Art + Auction、メトロポリスなど、アメリカをはじめとした国々の新聞や雑誌に寄稿している。

© 成田直茂

ビッグ・アイでの
すばらしい体験
エドワード・M. ゴメズ

ビッグ・アイでの素晴らしい体験

An eye-opening experience at BiG-i

エドワード M. ゴメズ

ある招待状

数ヶ月前、私は大阪にあるビッグ・アイ(国際障害者交流センター)から、ある招待状を受け取りました。それは、日本の国内外の独学のアーティスト(self-taught artists)を対象としたアートコンクールの審査員として、私を招待するものでした。それを受け取った時、大変うれしく思ったことを私は覚えています。1年に1回行われ、今年(2014年)で4回目となるこのコンクールに、私は初めての外国人審査員として招待されました。ビッグ・アイのディレクターやスタッフは、審査会のメンバーを選ぶにあたり、私が日本語を話せることや、日本の文化に親しいこと、独学のアーティストたちの芸術という分野における私の長年の経験をふまえ、審査員にふさわしいと考えてくれました。

独学者

私は、今年の審査会メンバーとして招待していただいたことを大変光栄に思いました。コンテンポラリーアートという分野のジャーナリスト、研究者として、ヨーロッパ、北アメリカ、東アジアで多くの独学のアーティストの作品を調査してきましたが、今日では、日本でも独学のアーティスト(アートスクールや正規の美術教育を受けたことが無いアーティスト)による作品は、よく知られるようになっていきます。

このような作品は、しばしば「アール・ブリュット(art brut)」という、フランスの現代美術家、ジャン・デュビュッフェによって作られたフランス語の名で呼ばれます。この言葉は、「生の芸術」を意味します。それは、作品を観る人や主流のアート市場のためではなく、作者が主として自分自身のために創造した作品から感じられる、純粋で、生のままの創造的エネルギーについて言及しています。私は、このような作品をあらわす言葉としては、「独学のアーティストの芸術(self-taught artists' art)」を用いることを好みます。日本語では、このような作品の作者を「独学者(dokugakusha)」と呼ぶこともできます。

夢の中の人影

ビッグ・アイアートプロジェクト2014の審査会場には、850点以上の作品が集まりました。審査会のメンバーは、10月の初旬にビッグ・アイで顔を合わせました。すべてのアート作品を審査し、コンクールの受賞者を決定するために集まったのです。審査員の一人ひとりが何名かの入賞者と佳作入賞者を選び、それぞれの名前を冠した審査員賞の受賞者を1人選びました。

私は、金沢市出身の若い男性、竹内知(たけうちさとる)さんを、エドワード M. ゴメズ賞の受賞者として選びました。竹内さんは、色とりどりの筆の運びによって描かれた雲の中から浮かび上がるような、



あるいは短く鋭い筆致で描かれた滝の中に浮かぶような、ほのかに見える女性の姿を描いています。それはまるで、夢の中の人影のようにも見えます。普段、彼は紙に絵を描くようですが、今回のコンクールに送られた作品は、とても大きなものでした。彼はこの作品を創るために2つの絵の画像を大きく引き伸ばし、デジタルプリントの技術を使って大きな布に転写したようです。

11月の下旬に、アートプロジェクトの表彰式への参加のために再びビッグ・アイに戻ってくることができたのは、私にとって大変喜ばしいことでした。記念コンサートや打楽器の演奏とダンスによるパフォーマンスなど、2日間にわたる芸術文化の祭典を大いに楽しみました。会場では、コンクールの全ての入選作品が展示された、彩り豊かな展覧会が開催されていました。私は、竹内さんの大きな絵が、私が選んだ他のアーティストの作品や、他の審査員によって選ばれた作品とともに展示されている様子に、とても興奮しました。

エドワード M. ゴメズ 4つの視点



たくさんの作品の中から受賞作品を選ぶのは大変なことだったと言うゴメズ氏。審査にあたり重視したという4つのポイントを語っていただきました。

作品撮影:合田慎二

1 主題(テーマ)

まず初めに、たとえ作品自体が完全に抽象的なものだったとしても(抽象表現というのは、それ自体でひとつの芸術的手法であり、アーティストの中には、この手法のほうが、写実表現よりも自分自身をより良く表現できる人もいます)、作品それぞれの主題に興味を持つようにしました。たいていの場合、アーティストが何かを象徴したり、演出したりするために選んだ主題は、個々人にとってとても意味のあるものなのです。



岡本大地 「イス君」



三澤 隆 「自然」



柴田 龍平 「時を刻む箱」

2 素材の使い方

2つめに、独創的かつ革新的な素材の使用に重点を置きました。コンクールに参加している多くのアーティストが、シンプルで控えめな素材を、想像力に富んだ方法で用いていました。例えば、紙や段ボールを彫刻の素材として使用したアーティストもいれば、ペンと紙という基礎的な素材だけを使用し、多くのユーモアやドラマでいっぱいの物質界の並外れたイメージや、その詳細な観察結果を創り上げることを可能にしたアーティストもいました。

作品から聞こえる声

コンクールへの応募作品を審査する中で、私は提出された作品の中に垣間見ることのできる素材の多様性や、創作技術に深い感動を覚えました。特に私は、アーティストによって異なる描き方や、その主題、異なった形で示される芸術的な表現の特徴や個性に興味をそそられました。アーティストはみな、それぞれの声を持っています。しばしばその声は、その作品を通して聞くことができるのです。

私は、参加したアーティストの多くが、作品を創るために抽象的な表現を用いていることにも心をひかれました。良い抽象芸術は、大きな力を持っています。今回のコンクールに応募したアーティストの中には、絵の具やインク、色鉛筆、コラージュを用いて、とても独創的な抽象作品を創作した方もいました。また、折り紙や段ボールの切れ端を使ったアーティストもいました。

特別賞

ビッグ・アイで年ごとに開催されるこのコンクールは、日本や海外の独学のアーティストに、彼らの才能や努力の真価を認める多くの人々と、その作品を共有する素晴らしい機会を与えてくれます。ビッグ・アイのスタッフは、コンクールやアートフェスティバル、そして展覧会を開催するために、何ヶ月もの



竹内 知 「撒き散らされたもの」

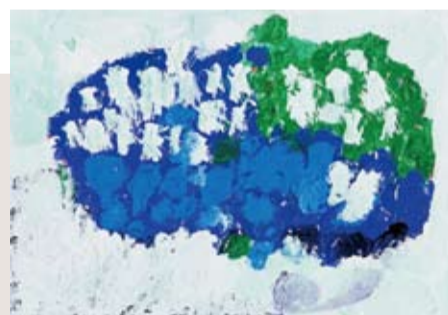
間、一生懸命働きました。彼らの気配りの行き届いたプロフェッショナルな姿勢と、応募された作品の高いクオリティーにより、このコンクールは、大阪、そして日本でとても魅力的で素晴らしい芸術文化イベントとなっています。

私にとって、ビッグ・アイアートプロジェクトに招待されたことは、大変名誉なことでした。チーム・スピリットと創造的なエネルギー、たくさんの笑顔にあふれた忘れられない経験になりました。そして、私もこのコンクールで特別な賞をいただきました。それは、ここビッグ・アイ(国際障害者交流センター)でできた、アーティストやスタッフというたくさんの新しい“ともだち”なのです。



3 感情表現

3つめに重視したのは、作品の持つ感情的な内容です。アーティストたちの作品の中には、しばしば、たったひとつの色や筆の運びにも、感情のエネルギーの広がりを感じられるものが見られました。彼らの中には、自分たちがこのように表現したいと強く思うものに形を与えるために、物質的な質感や、躍るようなカラフルな点描のリズム、線模様などを用いたりする人もいました。このような創作技術は、作品に感情的な、あるいは精神的な雰囲気を加える助けとなります。



Norikazu 「無題」



上田 匡志 「ドッグレース」



徳永 克生 「植物」



田久保 妙 「みんなで...」

4 類似性・関係性

最後に、私はコンクールの応募作品を審査する上で、他の表現様式との類似性や関係性にも重きを置きました。コンクールに参加した独学のアーティストたちの作品のいくつかと、よく知られている現代美術作品の間に、予測していなかった関係性を見つけることは、とても興味深い出来事でした。私が言いたいのは、たとえば、コンクールに参加したアーティストが、主な現代美術作品の中でも用いられているような、抽象的な表現や余白、コラージュなどを使用しているということです。

info

ゴメズ氏のおすすめ作品に会いに行こう!!
ビッグ・アイアートプロジェクトの巡回展情報は、裏面をご覧ください!

ビッグ・アイ アートプロジェクト 入選作品展

共振 × 響心 静なる熱情

Quiet passion

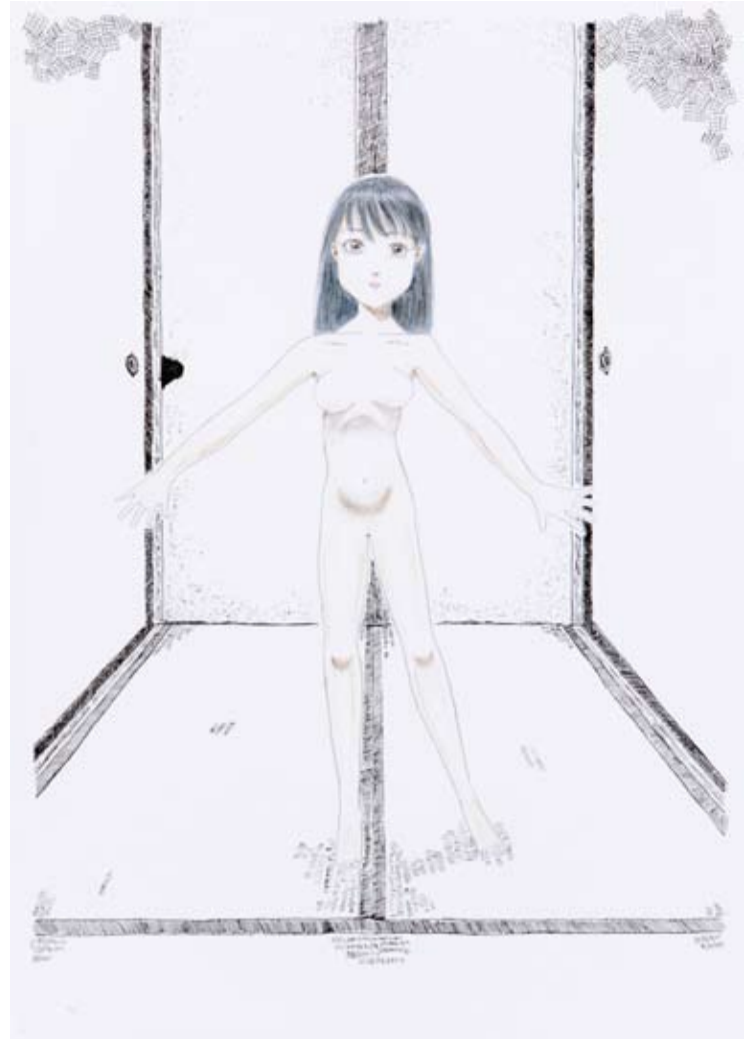
4回目を迎えた2014年度の「作品募集」には、国内外から956点もの作品が届きました。
この展覧会では、審査員の皆さまが悩みに悩んで選出した入選作品50点をご紹介します。
《瞬間》に込められた情熱、その息のつまるほどのエネルギーを、ぜひご体感ください。

Exhibition TOKYO YOKOHAMA OSAKA (調整中)

東京 Bunkamura Box Gallery
会期 2015年5月1日(金)～5月10日(日)
10:00～19:30 (最終日は17:00まで)
※5/2・9は、ワークショップ開催のため、12:30～15:00の間、CLOSEとなります。

横浜 障害者スポーツ文化センター 横浜ラポール
会期 2015年5月13日(水)～5月18日(月)
10:00～18:00 (5/16・17・18は17:00まで)

主催:国際障害者交流センター(ビッグ・アイ)
共催:社会福祉法人横浜市リハビリテーション事業団(横浜会場)
協力:株式会社東急文化村(東京会場)
助成:公益財団法人野村財団



ししゅんき(思春期)/Goblin

Event

東京会場 Bunkamura Box Gallery

「視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ」



障がいの有無にかかわらず、多様な人が集まり、言葉を交わしながら一緒に美術作品を鑑賞するワークショップを開催!
さまざまな感想を持ち寄ることで、一人では出会えない新しい美術の楽しみ方を発見できるはず。感じたことを思うままに語り合ってみませんか?



日時 2015年5月2日(土)・9日(土) 13:00～15:00
講師 視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ
参加無料 要申込(先着順) 定員各日10名程度

ワークショップへの参加には事前の申込が必要となります。
詳しくはビッグ・アイ ホームページをご覧ください、
下記までお問合せください。

問合せ ビッグ・アイ「アートプロジェクト」係 TEL 072-290-0962 FAX 072-290-0972 Eメール museum@big-i.jp ホームページ <http://big-i.jp/> **ビッグ・アイ** 検索

Present!

プレゼントクイズ 今号の特集記事からの出題です

Q ゴメズ氏がビッグ・アイ アートプロジェクトで獲得した特別な賞とは何でしょうか?



ヒント: ひらがな4文字

ビッグ・アイ アートプロジェクト
入選作品集
「BiG-i Art Collection 2014」を
10名様にプレゼント!!



■応募方法
クイズの答えと下記の必要事項をご記入の上、ハガキ、ファックス、Eメールのいずれかでご応募ください。
①氏名(ふりがな) ②郵便番号 ③住所 ④電話番号 ⑤本紙へのご感想やご希望、ご質問など正解者の中から抽選で10名様に景品を発送させていただきます。当選者の発表は景品の発送をもって代えさせていただきます。
※読者のみなさまからいただいたご意見を「i-co」紙面でご紹介する場合があります。予めご了承ください。

■応募締切
2015年4月30日(木)消印有効
■応募先
〒590-0115
大阪府堺市南区茶山台1-8-1
ビッグ・アイ「i-coプレゼント」係
FAX 072-290-0972
Eメール i-co@big-i.jp
ご応募の際にお預かりする個人情報については、個人情報保護関係法令を遵守し、本紙の運営・実施の目的以外には使用いたしません。

Information

食べる喜びをすべての人に みんなで楽しく外食を

レストラン・居酒屋では、噛む力の弱い方や、やわらかい食事を好まれる方々への食事支援食「優食」を提供しております。
通常食と同様に、彩りを楽しみ、香りを愉しみながら、自分の舌で味わってみませんか?
ご家族、友人、気のあうグループと、レストランでの外食をお楽しみください。

ゆうしょく 優食

モーニングセット



1,000円 オーダー 7:00～9:00

和食(銀鮭の塩焼き/だし巻き卵/味噌汁)又は洋食(鶏とじゃが芋のバター醤油/スクランブルエッグ/スープ)のいずれかに、ごはん又はおかゆ/ひとくちデザートセット。

※混雑等により、多少のお時間をいただく場合がございます。団体でのご利用の場合は、お席に限りがございますので、一度お問合せください。

優食セット



1,500円～ オーダー 11:30～20:30

主菜(ハンバーグ/牛肉の赤ワイン煮+100円/ホタテ貝のガーリック焼き+100円/のいずれかに)、彩り野菜のコンソメ煮/本日のスープ/ごはん又はおかゆをセット。おまかせデザートは+200円。

問合せ ビッグ・アイ フロント
TEL 072-290-0900 FAX 072-290-0920
Eメール front@big-i.jp



編集・発行 国際障害者交流センター(ビッグ・アイ)広報
〒590-0115 大阪府堺市南区茶山台1-8-1
TEL 072-290-0962 FAX 072-290-0972
発行日 2015年3月25日

平成27年度事業については、現在計画調整中のため、
今号はイベントカレンダーの掲載をお休みさせていただきます。